

アラビア語

松尾 愛

1. 受動表現

現代標準アラビア語(以下, MSA)では, 受動態は動詞を内部屈折(例 *kasala: break* → *kuṣila: kusila*) させることで表す. Cantarino (1974) によれば, 動作主が不明もしくは神に対しての尊敬心から述べられるべきではないとされる場合に限り受動態は使用されるという. Holes (1995) によれば, 受動構文でも前置詞句 (*min qibal: from the side of ... / min taraf: from the party of ... / 'ala yadi: by ...'s hand* など) を以って動作主を紹介することがあるとしている.

受動表現のなかで, 現在の状態を表現する際には受動分詞が用いられる.

以下の例文は, 東京外国語大学特任外国人教員イハブ・アフマド・エベード氏のチェックを受けている. 1つの日本語の文に対し, 複数の例文を示したものもあるが, いずれもイハブ氏から許容度が高いとされたものを示してある.

なお, 本稿における例文などはすべて稿末に掲げる規則に従った転写法により表記する.

(1)~(12)の例文のうち, 受動態を用いて表現するのは, (5)(6)(7) (動作主が明示されない場合)のみである. 受動分詞を用いて表現するのは(8)で, その他はすべて動作主を主語にした能動態で表す.

(1) A は B に叩かれた.

<i>daraba</i>	<i>'alī-yun</i>	<i>muḥammad-an</i>
殴る: PFV.3.M.SG	アリー-NOM	ムハンマド-ACC

「アリーがムハンマドを叩いた.

(2) A は B に足を踏まれた.

<i>dāsa</i>	<i>'alī-yun</i>	<i>'ala</i>	<i>qadam-a</i>	<i>muḥammad-in</i>
踏みつける: PFV.3.M.SG	アリー-NOM	~の上を	足-ACC	ムハンマド-GEN

「アリーがムハンマドの足を踏んだ.」

(3) A は B に財布を盗まれた.

<i>saraqā</i>	<i>'alī-yun</i>	<i>maḥfazat-a</i>	<i>muḥammad-in</i>
盗む: PFV.3.M.SG	アリー-NOM	サイフ-ACC	ムハンマド-GEN

「アリーがムハンマドの財布を盗んだ.」

(4) 昨日の夜, 私は赤ん坊に泣かれた. それでちっとも眠れなかった. [迷惑の受身]

MSA には、日本語の「泣かれた」のような受動構文は見当たらない。

mā nimutu 'abad-an li-'anna t-ṭifl-a
 NEG 眠る: PFV.1.SG (対格で) 決して (理由) -that (接続詞) DEF-赤ん坊-ACC
 kāna yabkī tawāla l-layl-i 'amsi
 COP: PFV.3.M.SG 泣く: IPFV.3.M.SG 間 DEF-夜 昨日

「赤ん坊が昨日の夜一晩中ないたので (困って) 私はちっとも眠らなかつた。」

(1)(2)(3)(4)はいずれも動作主が明らかなので、受動態は用いず、能動態で表す。

(5) 新しいビルが (A によって) 建てられた。

(5a) buniya mabnā jadīd-un
 建てる: PASS.PFV.3.M.SG 建物.NOM 新しい-NOM
 「新しい建物が建てられた。」

(5b) banā muḥammad-un mabnā jadīd-an
 建てる: PFV.3.M.SG ムハンマド-NOM 建物.ACC 新しい-ACC
 「ムハンマドが新しい建物を建てた。」

(5) (5a)は動作主が不明の場合の文で、受動態で表す。(5b)は動作主が明らかなので能動態で表す。

(6) カナダではフランス語がはなされている。

(6a) tustaxdamu l-luḡat-u l-faransīyat-u fī kānādā
 使う: PASS.IPFV.3.F.SG DEF-言語-NOM DEF-フランスの-NOM ~で カナダ
 「フランス語がカナダで使われている。」

(6b) yatakallamu kānādī-yūn l-luḡat-a l-faransīyat-a
 話す: IPFV.3.M.SG カナダ人-PL.NOM DEF-言語-ACC DEF-フランスの-ACC
 「カナダ人はフランス語を話す。」

(6) (6a)は動作主の特にないので受動態で表す。(6b)は不定・複数のカナダ人を主語に能動態で表した文である。

(7) 財布が (A に) 盗まれた。

動作主が不明の場合、受動態が用いられる。

suriqat l-mahfazat-u
 盗む: PASS.PFV.3.F.SG DEF-サイフ-NOM
 「財布が盗まれた。」

(7) 動作主が不明なので受動態を用いる。動作主が明らか場合は例文(3)のように能動態を用いて表す。

(8) 壁に絵が掛けられている。

(8a) a-ṣṣūrat-u mu‘allaqat-un ‘ala l-jidār-i
 DEF-絵-NOM 掛ける.PPT-NOM ~の上に DEF-壁-GEN
 「絵が壁に掛けられている。」

(8b) tu‘llaqu ṣ-ṣūrat-u ‘ala l-jidār-i
 掛ける:PASS.IPFV.3.F.SG DEF-絵-NOM ~の上に DEF-壁-GEN
 「絵は壁に掛けられるものだ／まさに今絵が壁にかけられている。」

(8) 「壁に絵が掛けられている」状態は(8b)のような動詞の未完了形では表せない。(8a)のように状態を表す受動分詞を用いる。(8b)は「絵とは～なものだ」という一般的な事柄の説明する文、もしくは「今まさに～している」という意味を表す受動構文である。

(9) AはBに／から愛されている。

(9a) tuḥibbu fāṭimat-u muḥammad-an
 愛する:IPFV.3.F.SG ファーティマ-NOM ムハンマド-ACC
 「ファーティマはムハンマドを愛している。」

動作主が明らかことから受動態は用いない。「BがAを愛している」という能動態で表す。なお、以下のような受動分詞を用いた作文は可能である。

(9b) muḥammad-un maḥbūb-un mina n-nās-i
 ムハンマド-NOM 愛する.PPT ~から DEF-人々-GEN
 「ムハンマドは人々から愛されている。」

??(9c) muḥammad-un maḥbūb-un min fāṭimat-i
 ムハンマド-NOM 愛する.PPT ~から ファーティマ
 「ムハンマドはファーティマから愛されている。」

イハーブ氏によると、min以下の部分が(9b)のように、集団や組織であれば受動分詞を用いた文でも表すことができるが、min以下の部分が(9c)のように特定の人名になると容認度が低いという。

また、いわゆる「ゾウは鼻が長い構文」とよばれる二重構文を用いて、(9d)のように表すこともできる。

(9d) muḥammad-un, tuḥibbu-hu fāṭimat-u
 ムハンマド-NOM 愛する:IPFV.3.F.SG-彼を ファーティマ-NOM
 「ムハンマドはファーティマが愛している。」

(10) AはBに／から「…」と言われた。

qāla ‘alī-yun li-muḥammad-in ‘inna ...
 言う:PFV.3.M.SG アリー-NOM ~に-ムハンマド-GEN that ...

「アリーが...とムハンマドに言った。」

(10) 動作主が明らかなので、受動態は用いない。

(11) AさんはBさんに呼ばれて、今Bさんの部屋に行っています。

(12) BさんがAさんを読んで、Aさんは今Bさんの部屋に行っています。

(11)(12)は、動作主が明らかなので、いずれも能動態で表す。MSAでは(11)と(12)は同じ表現になる。

da‘ā	‘alī-yun	muḥammad-an	’ila	gurfat-i-hi
呼ぶ: PFV.3.M.SG	アリー-NOM	ムハンマド-ACC	～に	部屋-GEN-彼.GEN

wa-huwa	al-ān-a	hunāka	
そして (付帯状況) 彼.NOM	(対格で) 今	そこに	

「アリーが自分の部屋にムハンマドを読んで、(ムハンマドは) 今そこにいます。」

2. アスペクト

(1) ～さん (固有名詞) は/あの方は もう来た。

qad	’atā(/jā’a)	muḥammad-un
もう	来る: PFV.3.M.SG	ムハンマド-NOM

「ムハンマドはもう来た。」

(1) (1)はqadという小辞を動詞の前に用いることで「既に動作が完了している」ことを強調している。’atāの代わりに、jā’a来る: PFV.3.M.SGでもよい(jā’aは古典アラビア語ではbi-(～を携えて)と共に用いられていたがMSAでは’atāとjā’aには差異がないとされる)。

(2) ～さん (固有名詞) は/あの方は もう来ている。

(2a) qad	’atā(/jā’a)	muḥammad-un
もう	来る: PFV.3.M.SG	ムハンマド-NOM

「ムハンマドはもう来た。」

(2b) muḥammad-un	hunā
ムハンマド-NOM	ここに

「ムハンマドは(もう来て) ここにいる。」

(2c) muḥammad-un	mawjūd-un	hunā
ムハンマド-NOM	いる.PPT-NOM	ここに

「ムハンマドは(もう来て) ここにいる。」

(2) (2a)と(1)の文はMSAでは区別がない。(2b)や(2c)のように名詞文で「今～にいる状態である」として表現することもできる。

(3) ~さん (固有名詞) は/あの方は まだ来ていない.

(3a) lam ya'ti muḥammad-un ba'du
NEG 来る:JUSS.3.M.SG ムハンマド-NOM まだ
「ムハンマドはまだ来ていない。」

(3b) mā 'atā muḥammad-un ba'du
NEG 来る:PFV.3.M.SG ムハンマド-NOM まだ
「ムハンマドはまだ来ていない。」

(3) (3a)は否定辞の lam+動詞の短形に「まだ」という語を用いた文である。(3b)は否定辞の mā+動詞の完了形に「まだ」という語を用いた文である。どちらも同じ意味を表している。古典アラビア語では(3a)と(3b)の間には違いがあるとされていた(Sāmīrā'ī 2000: 193)が、MSA ではその違いは消失している。ba'du 「まだ」という副詞を伴うことで、過去のある時点から今もまだ動作は行われていないことを表す。副詞を伴わないと、(8)のように「過去の否定」になる。

(4) ~さん (固有名詞) は/あの方は まだ来ない.

(4)の表現は(3a)(3b)と全く同じ表現を用いる。

(5) ~さん (固有名詞) は/あの方は もう (すぐ) 来る.

(5a) sa-ya'ti muḥammad-un ḥāl-an
FUT-来る:IPFV.3.M.SG ムハンマド-NOM (対格で) もうすぐ

(5b) sawfa ya'ti muḥammad-un ḥāl-an
FUT 来る:IPFV.3.M.SG ムハンマド-NOM (対格で) もうすぐ

(5) (5a)は未来を表す接頭辞 sa-を未完了形の動詞に付加して、「もうすぐ」という意味の副詞句を用いた文である。(5b)は未来を表す小辞 sawfa を用いた文である。

(6) (あつ,) ~さんが来た. [その人が来るのに気づいた場面での発話]

(6a) yā, ḥaḍara muḥammad-un
ああ 現れる:PFV.3.M.SG ムハンマド-NOM

(6b) yā, jā'a muḥammad-un
ああ 来る:PFV.3.M.SG ムハンマド-NOM

(6) (6a)は「現れる」という動詞の完了形を用いて表した文である。(6b)は「来る」という動詞の完了形を用いて表した例である。いずれもちょうど「来た」ことを表している。

(7) おととい, ~さんが来たよ.

'atā muḥammad-un qabla yawm-ayini
来る:PFV.3.M.SG ムハンマド-NOM 前に 日-DU.GEN

「おととい、ムハンマドが来た。」

完了形を用いて表す。

(8) おととい、～さんは来なかったよ。

(8a) lam ya'ti muḥammad-un qabla yawm-ayini
NEG 来る: JUSS.3.M.SG ムハンマド-NOM 前に 日-DU.GEN

「おととい、ムハンマドは来なかった。」

(8b) mā 'atā muḥammad-un qabla yawm-ayini
NEG 来る: PFV.3.M.SG ムハンマド-NOM 前に 日-DU.GEN

「おととい、ムハンマドは来なかった。」

(8) (8a)(8b)の文は(3a)(3b)と副詞句・前置詞句の部分は異なるが否定辞+動詞の短形/完了形の部分は同じである。過去の否定を表している。

(9) (私は) あのリンゴをもう食べた。

qad 'akaltu tilka l-tuffāḥat-a
もう 食べる: PFV.1.SG あの DEF-リンゴ-ACC

「私はあのリンゴをもう食べた。」

(9) (2)と同じ構造 qad+動詞の完了形である。

(10) 私はあのリンゴをまだ 食べていない/食べない。

(10a) lam ākul tilka l-tuffāḥat-a ba'du
NEG 食べる: IPFV.1.SG あの DEF-リンゴ-ACC まだ

「私はあのリンゴをまだ 食べていない。」

(10a) mā 'akaltu tilka l-tuffāḥat-a ba'du
NEG 食べる: PFV.1.SG あの DEF-リンゴ-ACC まだ

「私はあのリンゴをまだ 食べていない。」

(10) (3a)(3b)と同様の文である。ba'du 「まだ」という語を文末に付加して表す。

(11) あの人は今 (ちょうど) そのリンゴを食べています/食べているところです。

(11a) ya'kulu dālika ṣ-ṣaxṣ-u l-tuffāḥah l-ān-a
食べる: IPFV.3.M.SG あの DEF-人-NOM DEF-リンゴ.ACC (対格で) 今
「あの人は今 (ちょうど) そのリンゴを食べています/食べているところです。」

?(11b) dālika ṣ-ṣaxṣ-u ākil-un al-tuffāḥat-a l-ān-a
あの DEF-人-NOM 食べる.APT-NOM DEF-リンゴ-ACC (対格で) 今
「あの人は今 (ちょうど) そのリンゴを食べています/食べているところです。」

(11) (11a)は動詞の未完了形に「今」という副詞句を併せて用いている。(11b)は「今～している」という状態を表すために、能動分詞 *ākil-un* を用いた文だが、イハーブ氏によると、発話したことがないという。容認度が低いと考えられる。なお、以下に示す(11c)は「眠っている」という状態を表す能動分詞 *nā'im-un* を用いた文で、これは問題なく使えるという。従って、「今～している」という意味を能動分詞を用いて表すことが可能であるかは個々の動詞によると言える。

(11c) *huwa nā'im-un al-ān-a*
 彼.NOM 眠る.APT-NOM (対格で) 今
 「彼は今眠っている。」

(12) 窓が開いている。／窓が開いていた。

(12a) *a-ššubbāk-u maftūḥ-un*
 DEF-窓-NOM 開く.PPT-NOM
 「窓が開いている。」

(12b) *kāna š-šubbāk-u maftūḥ-an*
 COP: PFV.3.M.SG DEF-窓-NOM 開く.PPT-ACC
 「窓が開いていた。」

(12) (12a)は能動分詞を用いた名詞文で、現在の状態を表している例である。(12b)は英語の *be* 動詞にあたるような動詞 *kāna* の完了形を用い、補語にあたる受動分詞は対格になっている。いずれも「状態」を表すために受動分詞を用いた文である。

(13) 私は毎朝新聞を読む／読んでいます。

(13a) *'aqrā'u jarīdat-an kull-a ṣ-ṣabāḥ-i*
 読む: IPFV.1.SG 新聞-ACC 毎-ACC DEF-朝-GEN
 「私は毎朝新聞を読む／読んでいます。」

(13) (13a)は未完了形を「毎朝」という副詞句とともに用いている。過去の習慣を表す場合には *kāna*(COP)+未完了形を用いるが、現在の習慣には特別なアスペクト形式は存在しない。

(14) あなたは(あなたの)お母さんに似ている。

(14a) *tušbiḥu 'umm-a-ka*
 似ている: IPFV.2.M.SG 母-ACC-あなたの
 「貴男は貴男のお母さんに似ている。」

* (14b) *'anta mušbiḥ-un*
 貴男.nom 似ている.APT

(14c) 'anta mutazawwij-un
 あなたは 結婚する.APT-NOM
 「あなたは結婚している。」

?? (14d-1) ('anta) tatazawwaju
 (あなたは) 結婚する: IPFV.2.M.SG
 「あなたは結婚している。」

(14d-2) al-bint-u tatazawwaju
 DEF-女の子-NOM 結婚する: IPFV.3.F.SG
 「女の子は結婚するものです。」

(14e) huwa nā'im-un
 彼は 眠る.APT-NOM
 「彼は眠っている。」

(14f) yanāmu hunā
 眠る: IPFV.3.M.SG ここに
 「彼はここで眠る。」

(14) 動詞によって、未完了形を用いて「状態」をあらわすものと、能動分詞を用いて「状態を表すものがある。「似ている」という場合は、(14a)のように動詞の未完了形で表す。(14a)で用いた動詞'ašbaha「似ている」の能動分詞形では「状態」を表すことはできず、(14b)は非文である。「結婚している」という場合、(14c)のように能動分詞を用いて「結婚している」状態を表す。(14d)のように動詞の未完了形を用いて「結婚しているという現在の状態」を表すというよりは、「一般論」として「結婚するものだ」という意味を表す。(14e)も自動詞の例で、(14c)と同様に能動分詞を用いている。(14f)は、動詞の未完了形を用いて「習慣」を表す文となっている。

(15) 私はその頃毎日学校へ通っていた。

(15a) kuntu 'aḏhabu 'ila l-madrasat-a kull-a yawm-in fi
 COP: PFV.1.SG 行く: IPFV.1.SG ～に DEF-学校-ACC 毎-ACC 日-GEN ～に
 ḏāika l-waqt-i
 あの DEF-時-GEN
 「私はその頃毎日学校へ通っていた。」

(15b) qad kuntu 'aḏhabu 'ila l-madrasat-a kull-ayawm-in fi
 もう COP: PFV.1.SG 行く: IPFV.1.SG ～に DEF-学校-ACC 毎-ACC 日-GEN ～に
 ḏāika l-waqt-i
 あの DEF-時-GEN
 「私はその頃毎日学校へ通っていた。」

(15) (15a)は英語の *be* 動詞にあたる *kāna*+未完了形の動詞を用いて過去の習慣を表している。(15b)は *qad* という小辞を動詞に先行させて、「過去のある時点でその動作は既に行われていた」ことを表している。イハープ氏によると、(15b)の場合は、現在はもう「行ってない」と感じられるという。

(16) 私は～に（大きな街の名前など）行ったことがある。

(16a) *zirtu* *landan*
訪れる:PFV.1.SG ロンドン
「私はロンドンに行った（ことがある）。」

(16b) *qad* *zirtu* *landan*
もう 訪れる:PFV.1.SG ロンドン
「私はロンドンに行った（ことがある）。」

(16) (16a)は動詞の完了形を、(16b)は完了形の前に小辞の *qad* を付した例である。

(17) やっとバスは 走り出した／走り始めた。

(17a) *taḥarrakat* *l-ḥāfilat-u* *'axīr-an*
動く:PFV.3.E.SG DEF-バス-NOM (対格で) やっと
「やっとバスは 動いた。」

(17b) *bada'at* *tataḥarrak-u* *l-ḥāfilat-i* *'axīr-an*
始まる:PFV.3.E.SG 動く:IPFV.3.E.SG-NOM DEF-バス-GEN (対格で) やっと
「やっとバスは 動き始めた。」

(17c) *bada'at* *fi* *tataḥarruk-i* *l-ḥāfilat-i*
始まる:PFV.3.E.SG ～において 動くこと(VN)-GEN DEF-バス-GEN
'axīr-an
(対格で) やっと
「やっとバスは動き始めた。」

(17) (17a)は「動く」という動詞の完了形に副詞句「やっと」を伴った例である。(17b)は「始める」という動詞に未完了形の動詞を後続させて「～し始める」という意味を表している。(17c)は「始める」という動詞の後に前置詞 *fi*+動名詞を後続させて「～することを始める」という意味を表している。

(18) きのう彼女はずっと寝ていた。

kānat *nā'imat-an* *ṭawāla* *l-'amsi*
COP:PFV.3.E.SG 眠る.APT-ACC 間 DEF-昨日
「昨日彼女はずっと眠っていた。」

(18) (18)は *kāna*+能動分詞 (対格) で、過去の状態を表している。「昨日の間中」という前置詞句をともなって、「ずっと」の意味を加えている。

(19) 私はそれをちょっと食べてみた。

jarrabtu-hu *qalīl-an*
 味見する:PFV.1.SG-それを (対格で) 少し
 「私は少しそれを味見した。」

(19) アラビア語には「試行的アスペクト表現」は特に見られない。(19)は「味見する」という動詞の完了形を用い、「ちょっと」にあたる副詞句を用いた表現である。

(20) あの人(ら)はそれ(ら)をみんなに分け与えた。

qassama-hu *dālika* *š-šaxṣ-u* *bayna* *n-nās-i*
 分ける:PFV.3.M.SG-それを あの DEF-人-NOM 間で DEF-人々-GEN
 「あの人(ら)はそれ(ら)をみんなに分け与えた。」

(21) さあ、(私たちは) 行くよ!

(21a) *li-naḡhab*

接辞 *li*-行く:JUSS.1.PL
 「さあ、(私たち一緒に) 行きましょう。」

(21b) *fa-l-naḡhab*

そして (接続詞) -接辞 *li*-行く:JUSS.1.PL
 「さあ、(私たち一緒に) 行きましょう。」

(21c) *hayyā* *naḡhab*

(間投詞) さあ 行く:JUSS.1.PL
 「さあ、(私たち一緒に) 行きましょう。」

(21) (21a)および(21b)は *li-/ fal* に動詞の短形を後置させる形で「一緒に～しよう」の意味になる。(21b)の *fa* はもともと、接続詞の *fa* 「そして」に *li*-が後置し、母音の脱落がおこったものである。(21c)は間投詞 *hayyā*+動詞の短形を用いた例である。

(22) 地球は太陽の周りを回っている。

tadūru *l-'arḡ-u* *ḡawla* *š-šams-i*
 回る:IPFV.3.F.SG DEF-地球-NOM ～の周りを DEF-太陽-GEN
 「地球は太陽の周りを回っている。」

(22) (22)はいわゆる「恒常的真理」を表す文。動詞の未完了形を用いて表す。

(23) あの木は今にも倒れそうだ。

(23a) takādu š-šajarat-u taqa‘u
 ～しそう: IPFV.3.F.SG DEF-木-NOM 倒れる: IPFV.3.F.SG
 「あの木は今にも倒れそうだ。」

(23b) takādu š-šajarat-u ’an taqa‘a
 ～しそう: IPFV.3.F.SG DEF-木-NOM that 倒れる: SBJV.3.F.SG
 「あの木は今にも倒れそうだ。」

(23c) aš-šajarat-u ‘ala wašuk-i ’an taqa‘a
 DEF-木-NOM on verge-gen that 倒れる: SBJV.3.F.SG
 「あの木は今にも倒れそうだ。」

(23d) a-š-šajarat-u ‘ala wašuk-i l-wuqū‘-i
 DEF-木-NOM on verge-GEN DEF-倒れること(VN)-GEN
 「あの木は今にも倒れそうだ。」

(23) (23a)(23b)は英語の be about to, be on the point に相当する動詞 kāda の未完了形を用いた例である。’anを用いた(23b)はMSAで特にみられるようになった例である。特に、非意図的な動作が起こりそうなときに用いる。(23c)(23d)は英語の at the point of, on the verge of に相当する前置詞句を用いた例である。

(24) (私は) あやうく転ぶところだった。

(24a) kidtu ’aqa‘u ‘ala l-’arq-i
 ～しそう: PFV.1.SG 転ぶ: IPFV.1.SG ～に DEF-地面-GEN
 「私はあやうく転ぶところだった。」

(24b) kidtu ’an ’aqa‘a ‘ala l-’arq-i
 ～しそう: PFV.1.SG that 転ぶ: SBJV.1.SG ～に DEF-地面-GEN
 「私はあやうく転ぶところだった。」

(24) (24a)(24b)の例は(23a)(23b)の例と同様の kāda を用いた例である。’an(that)はあつてもなくてもよい。

(25) 明日お客が来るので、パンを買っておく。

’āštārī xubz-an li-’anna-hu sa-yazūru-nī
 買う: IPFV.1.SG パン-ACC (理由) -that (接続詞) 非人称代名詞 FUT-IPFV.3.F.SG-私を
 dayf-un ġad-an
 客-NOM (対格で) 明日

「明日客が私を訪ねるので、私はパンを買う。」

(25) アラビア語には「～しておく」といった表現はない。「客が来る(未来)ので、買う(未

完了)」という形で表す。

- (26) (私は) ～に (街とか市場とか) 行った時, この袋を買った。

ištaraytu hāḍa l-kīs-a 'indamā ḡahabtu 'ila l-madīnah
 買う:PFV.1.SG この DEF-袋-ACC 時 (接続詞) 行く:PFV.1.SG ～に DEF-街
 「私は街に行った時, この袋を買った。」

- (26) 主節, 従節どちらも完了形を用いる。

- (27) (私は) ～に (街とか市場とか) 行く時/行く前に, この袋を買った。

(27a) ištaraytu hāḍa l-kīs-a qabla 'an 'aḡhaba
 買う:PFV.1.SG この DEF-袋-ACC 前に that (接続詞) 行く:SBJV.1.SG
 'ila l-madīnah
 ～に DEF-街
 「私は街に行く時/行く前に, この袋を買った。」

(27b) ištaraytu hāḍa l-kīs-a qabla l-ḡahāb-i 'ila
 買う:PFV.1.SG この DEF-袋-ACC 前に DEF-行くこと(VN)-GEN ～に
 l-madīnah
 DEF-街
 「私は街に行く時/行く前に, この袋を買った。」

- (27) (27a)は従属節は接続形, 主節は完了形を用いる。(27b)は「町に行く前」の部分前置詞句で表している。

- (28) (私は) 彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた。

(28a) kuntu 'a'rifu 'anna-hu štarī hāḍa
 COP:PFV.1.SG 知る:IPFV.1.SG that-彼は 買う:PFV.3.M.SG この
 l-kīs-a mina l-sūq-i
 DEF-袋-ACC ～から DEF-市場-GEN
 「私は彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた。」

(28b) kuntu 'a'rifu 'anna-hu kāna ḡad
 COP:PFV.1.SG 知る:IPFV.1.SG that-彼は COP:PFV.3.M.SG もう
 štarī hāḍa l-kīs-a mina l-sūq-i
 買う:PFV.3.M.SG この DEF-袋-ACC ～から DEF-市場-GEN
 「私は彼が市場でこの袋を買ってしまったのを知っていた。」

- (28) (28a)は主節ではkāna+未完了形で過去の状態を表している。従節は完了形を用いている。
 (28b)は主節は(28a)と同じだが, 従節がkāna+小辞「もう」+完了形の形で「すでに過去のある

- (3a) *lā budd-a* 'an *narja'a* li-'anna l-waqt-a
 NEG escape-acc that 帰る: SBJV.1.PL (理由) -that (接続詞) DEF-時間-ACC
muta'axxir-un
 遅い\ PPT-NOM

「遅くなったので私たちはもう帰らなければならない。」

- (3b) *yajibu* 'an *narja'a*
 ~しなければならない: IPFV.3.M.SG that 帰る: SBJV.1.PL
li-'anna l-waqt-a *muta'axxir-un*
 (理由) -that (接続詞) DEF-時間-ACC 遅い\ PPT-NOM

「遅くなったので私たちはもう帰らなければならない。」

(3) (3a)の「lā+対格」の形は本来「～が存在しない、ない」という意味で、直訳すると *lā budda* は「漏れなく」である。(3b)は常に3人称男性単数の未完了形で用いる *yajibu* 「～しなければならない」という動詞を用いた例である。いずれも *that* 以下に接続形の動詞を後続させる。

(4) (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ。

- (4a) *yanbaġi* 'an *ta'xuḍa* ma'a-ka
 ~する必要がある that 持つ: SBJV.2.M.SG ~とともに-貴男
li-'anna-hā sa-tamṭiru

(理由) -that (接続詞) -それ. acc FUT-雨が降る: IPFV.3.F.SG

「雨が降るそうだから、傘を貴男は持っていった方がいい。」

- (4b) *min* al-'afḍal-i 'an *ta'xuḍa* ma'a-ka
 of DEF-好ましい-GEN that 持つ: SBJV.2.M.SG ~とともに-貴男
li-'anna-hā sa-tamṭiru

(理由) -that (接続詞) 非人称代名詞 FUT-雨が降る: IPFV.3.F.SG

「雨が降るそうだから、傘を貴男は持っていった方がいい。」

(4) (4a)は常に3人称男性単数の未完了形で用いる *yanbaġi* 「～する必要がある」という動詞を用いた表現である。(4a)の *hā* は *ṣ-ṣamā'-u* 「空・天気」という女性名詞のことを指す代名詞として非分離系人称代名詞の三人称女性単数にあたる *hā* が用いられている。(4b)は「*min*+DEF-形容詞-GEN+接続形」の構文を用いた例である。

(5) 歳を取ったら、子供の言うことを聞くべきだ／ものだ。

- (5a) *min* aḍ-ḍarūrī 'an *yasma'a* l-wālid-āni kalām-a
 of DEF-必要な-GEN that 聞く: SBJV.3.M.SG DEF-親-DU.NOM 言葉-ACC
bn-i-humā 'indamā yakburāni fi s-sinn-i
 子供-GEN-彼ら.DU.GEN 時 (接続詞) 老いる: IPFV.3.M.DU ~において DEF-年-GEN

「年を取ったら親は子供の言うことを聞く必要がある。」

- (5b) min ʔ-ʔabīʔ ʔan yasmaʔa l-wālid-āni kalām-a
of DEF-自然な-GEN that 聞く: SBJV.3.M.SG DEF-親-DU.NOM 言葉-ACC
bn-i-humā ʔindamā yakburāni fī s-sinn-i
子供-GEN-彼ら.DU.GEN 時 (接続詞) 老いる: IPFV.3.M.DU ~において DEF-年
「年を取ったら親は子供の言うことを当然聞くべきはずだ。」

(5) (5a)は「min+DEF-形容詞-GEN+接続形」の構文を用いた例である。(4a)(4b)で用いた動詞や構文でも言うことが可能である。(5b)は「当然～のはずだ」というニュアンスがでている。

(6) (お腹が空いたので、私は) 何か食べたい。

- (6a) ʔurīdu ʔan ākula šayʔ-an li-ʔan-nī
欲しい: IPFV.1.SG that 食べる: SBJV.1.SG もの-ACC (理由) -that (接続詞) -私.ACC
jawʔān-un
空腹の-NOM
「お腹が空いたので、私は何か食べたい。」

- (6b) ʔurīdu ʔakl-a šayʔ-in li-ʔan-nī
欲しい: IPFV.1.SG 食べること(VN)-ACC もの-GEN (理由) -that (接続詞) -私
jawʔān-un
空腹の-NOM
「お腹が空いたので、私は何か食べたい。」

(6) (6a)は動詞ʔarāda「欲しい」に接続形の動詞を that 節以下に後続させた例である。(6b)はʔarāda「欲しい」+前置詞 fī+動名詞で表している。(6b)の方がより文語的な表現である。

(7) 私が持ちましょう。

- daʔ-nī ʔaḥmalu la-ka hādā
させる: IMP.2.M-私-GEN 運ぶ: IPFV.1.SG ~のために-貴男.GEN これ.ACC
「私が貴男のためにこれを運びましょう。」

(7) 英語の「Let me do」の形に相当する表現である。wadaʔa という動詞は命令形の形でのみ用いる。

(8) じゃあ、一緒に昼ごはんを食べましょう。

- (8a) ʔīdan fa-l-naʔkul l-ḡadāʔ-a
それでは そして (接続詞) -接辞 li-食べる: JUSS.1.PL DEF-昼食-ACC
(maʔa-an)
((対格で) 一緒に)

「じゃあ、一緒に昼ごはんを食べましょう。」

(8b) 'iḍan hayyā na'kul l-ḡadā'-a (ma'a-an)

それでは (間投詞) さあ 食べる:JUSS.1.PL DEF-昼食-ACC ((対格で)一緒に)

(8) (8a)は fal に動詞の短形を後置させる形で「一緒に～しよう」の意味になる。(8a)の fal はもともとは、接続詞の fa「そして」に li-が後置詞、母音の脱落がおこったものである。(8b)は間投詞 hayyā に動詞の短形を後続させる例である。いずれの文でも「一緒に」という副詞句はあってもなくてもよい。

(9)一緒に昼ごはんを食べませんか？

(9a) hal na'kulu l-ḡadā'-a (ma'a-an)?

Q 食べる:IPFV.1.PL DEF-昼食-ACC ((対格で)一緒に)

「一緒に昼ごはんを食べましょうか。」

(9b) mā ra'y-u-ka 'an na'kula l-ḡadā'-a (ma'a-an)?

何 考え-NOM-貴男.GEN that 食べる:SBJV.1.PL DEF-昼食 ((対格で)一緒に)

「一緒に昼ごはんを食べるのはどうですか。」

(9) (9a)は「食べる」という動詞を1人称複数未完了形を疑問文にした例である。(9c)は「that以下について貴男の考えはどうか？」という尋ね方である。(8)の例と比べて、最も強度度が低いのは(9b)である。いずれの例も「一緒に」という副詞句はあってもなくてもよい。

(10) 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。

'atamannā 'an yakūna l-jaww-u jamīl-an
望む:IPFV.1.SG that COP:SBJV.3.M.SG DEF-天気-NOM 美しい-ACC

ḡad-an

(対格で) 明日

「明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。」

(10) (10)は tamannā「望む」という動詞に that+接続形を後続させた例である。

(11) (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい。

(11a) 'ahḍir-hu ḥāl-an

持ってくる:IMP.2.M-それ.ACC (対格で) すぐに

wa-sa-'antaziru-ka hunā

(付帯状況) -FUT-待つ:IPFV.1.SG-貴男.ACC ここで

「私がここで待っている間にそれをすぐに持って来い。」

(11b) sa-'antaziru-ka hunā fa-'ahḍir-hu

FUT-待つ:IPFV.1.SG-貴男.ACC ここで そして-持ってくる:IMP.2.M-それ.ACC

ḥāl-an

(対格で) すぐに

「私がここで待っているからそれをすぐに持って来い。」

(11) (11a)(11b)ともに「持って来い」の部分は命令形である。

(12) そのペンをちょっと貸していただけませんか？

(12a) hallā `a`alta-nī l-qalam-a?
why not 貸す:PFV.2.M.SG-私-GEN DEF-ペン-ACC

「そのペンをちょっと貸していただけませんか?。」

(12b) hal yumkinu-nī `an `asta`īra l-qalam-a?
Q できる:IPFV.3.M.SG-私-ACC that 借りる:SBJV.1.SG DEF-ペン-ACC

「私はあなたからそのペンを借りることはできますか?」

(12c) hal min al-mumkin-i `an `asta`īra l-qalam-a?
Q of DEF-可能な-GEN that 借りる:SBJV.1.SG DEF-ペン-ACC

「私はあなたからそのペンを借りることはできますか?」

(12) (12a)の hallā は hal+lā(疑問標識+否定辞+完了形)で否定疑問文の形で丁寧な依頼, 懇願を表す。(12b)(12c)は(1a)(1b)で用いた文型を疑問文にした形で丁寧な依頼, 懇願を表す。(12b)は動詞文, (12c)は「min+DEF-形容詞-GEN+接続形」の構文である。

(13) あの人は中国語が読めます。／あの人は中国語を読むことができます。

(13a) yastaḥ`u ḍālika š-šaxš-u `an yaqra`a š-šīnīyat-a
できる:IPFV.3.M.SG あの DEF-人-NOM that 読む:SBJV.3.M.SG DEF-中国語-ACC

「あの人は中国語を読むことができます。」

(13b) yastaḥ`u ḍālika š-šaxš-u qirā`at-a š-šīnīyat-i
できる:IPFV.3.M.SG あの DEF-人-NOM 読むこと(VN)-ACC DEF-中国語-GEN

「あの人は中国語を読むことができます。」

(13c) ḍālika š-šaxš-u qādir-un `ala qirā`at-i š-šīnīyat-i
あの DEF-人-NOM できる.APT-NOM 前置詞 読むこと(VN)-GEN DEF-中国語-GEN

「あの人は中国語を読むことができます。」

(13) (13a)は istaḥ`a「できる」という動詞に接続詞 that+動詞の接続形を後置させる例である。(13b)は(13a)は istaḥ`a「できる」という動詞+動名詞(対格)を伴う例である。(13c)は状態を表す能動分詞 qādir `ala を用いた例である。よりフォーマル度の高い(格調高い)とされるのは動名詞を用いた(13b)の例である。

(14) 明かりが暗くて、ここに何て書いてあるのか、読めない。

(14a) lā 'astaḥī'u 'an 'aqrā'a l-makutūb-a
 NEG できる:IPFV.1.SG that 読む:SBJV.1.SG DEF-書かれているもの-ACC
 hunā li-'anna ḍ-ḍaw'a da'if-un
 ここに (理由) -that (接続詞) DEF-明かり-ACC 弱い-NOM
 「明かりが暗くて、ここに何て書いてあるのか、読めない。」

(14b) laysa min al-mumkin-i 'an 'aqrā'a
 ~ない:PFV.3.M.SG of DEF-可能な-GEN that 読む:SBJV.1.SG
 l-makutub-a hunā
 DEF-書かれているもの-ACC ここに
 「明かりが暗くて、ここに何て書いてあるのか、読めない。」

(14c) lastu qādir-an 'ala qirā'at-i
 ~ない:PFV.1.SG できる.APT-ACC (前置詞) on 読むこと (VN)-GEN
 l-makutub-i hunā
 DEF-書かれているもの-GEN ここに
 「明かりが暗くて、ここに何て書いてあるのか、読めない。」

(14) (14a)は that 節以降を(13b)のように動名詞で言うことも可能である。(14b)は「min+def-形容詞-gen+接続形」の構文を用いている。(14c)は qādirun (できる) という意味の能動分詞を用いた文である。

(15) (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ。 / もう着いたに違いない。

(15a) lā šakk-a 'anna-hum waṣalū
 NEG 疑い-ACC that-彼ら 到着する:PFV.3.M.PL
 「彼らはもう着いたに違いない。」

(15b) min al-mu'akkad-i 'anna-hum waṣalū
 of DEF-確かな.PPT-GEN that-彼ら 到着する:PFV.3.M.PL
 「彼らはもう着いたに違いない。」

(15c) min al-muftarad-i 'anna-hum waṣalū
 of DEF-確かな.PPT-GEN that-彼ら 到着する:PFV.3.M.PL
 「彼らはもう着いているはずだ。」

(15) (15a)は否定辞+不定名詞-対格で「〜が(絶対)ない」という強調した構文である。(15a)と(15b)は確信度が非常に高い。(15c)は(15a)(15b)に比べると確信度は低い。

(16) (あの人は) 今日とはたぶん来ないだろう。

(16a) lan ya'tiya al-yawm-a
 NEG 来る:SBJV.3.M.SG DEF-日-ACC (今日)

「彼は今日来ないだろう。」

(16b) qad lan ya'tiya al-yawm-a
たぶん NEG 来る:SBJV.3.M.SG DEF-日-ACC (今日)

「彼は今日来ないだろう。」

(16) (16a)は未来の否定辞 lan+動詞の接続形を用いた文である。qad 「かもしれない」が動詞の未完了形に前置された(16b)のほうが確信度は更に低い。フィフティフィフティの感覚がするという。

(17) 彼らがまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。

(17a) bi-t-ta'kīd-i sayyārat-u-hum mu'ṭallat-un li-'anna-hum
きっと 車-NOM-彼ら.GEN 故障している.PPT-NOM (理由) -that(接続詞)-彼ら
lam ya'tū ba'du
NEG 来る:JUSS.3.M.SG まだ

「彼らがまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。」

(17b) min al-muḥtamal-i 'anna sayyārat-u-hum qad
of DEF-ありがちな.PPT-GEN that 車-NOM-彼ら.GEN たぶん
takūn mu'ṭallat-an li-'anna-hum lam
COP: IPFV.3.F.SG 故障している.PPT-ACC (理由) -that (接続詞) -彼ら NEG
ya'tū ba'du
来る:JUSS.3.M.SG まだ

「彼らがまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないだろうか。」

(17) (17a)は疑念がかなり強い。(17b)は(17a)よりは疑念の強さは弱い。

(18) さあ、(昼間だからあの人は家に) いるかもしれないし、いないかもしれない。

lā 'a'rifū, rubbamā yakūnu fī l-bayt-i
NEG 知っている:IPFV.1.SG たぶん COP: IPFV.3.M.SG ~に DEF-家-GEN
wa-rubbamā lā yakūnu li-'anna-nā
そして-たぶん NEG COP: IPFV.3.M.SG (理由) -that (接続詞) -私たち
fī z-zuhr-i al-ān-a
~に DEF-昼 (対格で) 今

「今昼だから彼は家にいるかもしれないしいないかもしれないが、私は知らない。」

(18) 副詞 rubbamā 「たぶん」を用いた文。wa-のかわりに aw 「又は」を使ってもよい。

(19) (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。

(22) もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。

law lam taqul-nī la-mā staṭā'tu 'an
 もし～なら NEG 言う:JUSS.2.M.SG-私.ACC 接頭辞-NEG できる:PFV.1.SG that
 'ašila 'ila hunāka
 到着する:IPFV.1.SG ～に そこに

「もしあなたが言ってくれなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。」

(22) 条件節が lam+動詞の短形で「過去の否定」、応答節は mā+動詞の完了形で「過去の否定」になっている。

(23) (あの人は) 街へ行きたがっている。

yuṛīdu dālika š-šaxš-u 'an yaqhaba 'ila l-madīnat-i
 欲しい:IPFV.3.M.SG あの DEF-人 that 行く:SBJV.3.M.SG ～に DEF-街-GEN
 「あの人は街へ行きたがっている。」

(24) 僕にもそれを少し飲ませろ。

da'-nī 'ašrabu-hu qalīl-an
 自由に～させる:IMP.2.M-私.ACC 飲む:IPFV.1.SG-それ.ACC 少し-ACC
 「私にそれを少し飲ませろ。」

(24) 英語の Let me do の形に相当する表現。(7)の「私が～しましょうか?」と同じ構文である。

(25) これはあの人に持って行かせろ/持って行かせよう。

fa-l-ya'xuḡ-hu ma'a-hu
 接続詞-接辞 li-持つていく:JUSS.3.M.SG-それ.ACC ～とともに-彼.GEN
 「これはあの人に持って行かせろ」

(26) そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。

kuli l-ḥalw-a llatī 'ala t-tāwilat-i fimā ba'du
 食べる:IMP.2.M DEF-お菓子-ACC REL ～に DEF-テーブル-GEN (2語で) あとで
 「そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。」

(27) もっと早く来ればよかった。

(27a) yā layta-ka ji'ta mubakkir-an
 間投詞 ～だったらなあ-貴男 来る:PFV.2.M.SG 早い-ACC
 「貴男がもっと早くきてればなあ。」

(27b) yā layta-nī jī'tu mubakkir-an
 間投詞 ～だったらなあ私 来る:PFV.1.SG 早いACC
 「貴男がもっと早くきてればなあ。」

(27) 反実仮想で「～だったらなあ」を表す構文。yā layta の後には名詞は対格、非分離系人称代名詞は属格が続く。現実には起きていないできごとは、動詞の完了形で表す。

(28) あなたも一緒に行ったら（どうですか）？

mā ra'y-u-ka (fi) 'an taḏhaba
 what 考え-NOM-貴男.GEN (～における) that 行く:SBJV.2.M.SG
 ma'a-an?
 一緒-ACC

「あなたも一緒に行くというのはどうですか？」

(28) (9b)の構文と同じ。提案や丁寧な勧誘（相手に断る余地を与える強要度の低い言い回し）である。

(29) オレがそんなこと知るか。

man 'adrā-nī bi-ḏalika?
 誰 教える:PFV.3.M.SG-私.ACC of-それ.GEN

「誰が私にそんなことを伝えるのか。（誰も伝えない。）」

(29) 日本語では疑問詞のない反語表現だが、これに相当する MSA の表現では「誰が私にそんなことを伝えるのか。」という疑問詞を用いた反語表現となる。

(30) これを作った（料理した）のは、お母さんだよな？ いいえ、私が作ったのよ。

hal tabaxat 'ummu-ka hādā? 'a-laysa
 Q 料理する:PFV.3.F.SG 母親-貴男.GEN これ.ACC Q-～ではない:PFV.3.F.SG

ka-ḏalika?

ような-これ.GEN

「貴男のお母さんがこれを作ったの？そうじゃないの？」

(30) MSA には英語の付加疑問文のような念を押したり確認する構文はない。'a-laysa ka-ḏalika?という言い回しが「そうだよね？」という言い方に近い。

4. ヴォイスとその周辺

アラビア語の使役は、英語の *make* や *let* に相当する動詞を用いて目的語+動詞の未完了形を後続させることもできるが、動詞を IV 形 (fa'ala→'af'ala) の形にして派生させて生産的に作ることもできる。但し、全ての動詞が IV 形の派生形を持つわけではない。

(1a) 《風などで》ドアが開いた。

(1a-1) infataḥa l-bāb-u
 開く: PFV.3.M.SG DEF- ドア-NOM
 「ドアが開いた。」

(1a-2) infataḥa l-bāb-u bi-r-rīx-i
 開く: PFV.3.M.SG DEF- ドア-NOM ~によって-DEF-風-GEN
 「ドアが開いた。」

(1b) (彼が) ドアを開けた。

fataḥa l-bāb-a
 開ける: PFV.3.M.SG DEF- ドア-ACC
 「彼がドアを開けた。」

(1c) 入口のドアが開けられた。

futiḥa l-madḡal-u
 開ける: PASS.PFV.3.M.SG DEF-入口-NOM
 「入口が開けられた。」

(1) (1a-1)は自動詞を使った表現(派生形 VII 形)である。(1a-2)は、ドアが開いた原因を前置詞句によって付加した文である。bi-r-rīx-i「風によって」のほか、bi-fi'l-i r-rīx-i「風の作用で」という表現も可能である。(1b)は動作主が明らかなので能動態を用いて表現した文である。(1c)は動作主が不明であることから受動態を用いた文である。

(2) 私は(自分の)弟を立てさせた。

ja'altu 'ax-ī yaqafu
 ~させる 弟.ACC-私.GEN 立つ: IPFV.3.M.SG
 「私は弟を立てさせた。」

(2) 英語の *make*+目的語+原型不定詞に相当する表現。元々は ja'ala+動詞の未完了形は「～し始める」の意味で使われていたが現在では「～に...させる」という使役の意味がある。

(3) 私は(自分の)弟に歌を歌わせた。

?(3a) ja'altu 'ax-ī yugannī
 ~させる 弟.ACC-私.GEN 歌う: IPFV.3.M.SG

「私は弟に歌わせた。」

(3b) 'ajbartu 'axī 'ala l-ġinā'i
 強制する 弟.ACC-私.GEN 前置詞 DEF-歌うこと-GEN

「私は弟に（無理やり）歌わせた。」

(3) イハーブ氏によると、(3a)は文法的には可能だが使わないのではないかという。「歌ってもらおう」というニュアンスはMSAでは表しにくいとのことである。(3b)は'ajbara ('ala)「(~を)強制する」という動詞を使った文である。

(4a) 《遊びたがっている子供に無理やり》母は子供にパンを買いに行かせた。

(4a-1) 'ajbarat l-'umm-u t-ṭifl-a 'ala
 強制する:PFV.3.F.SG DEF-母親-NOM DEF-子供-ACC 前置詞
 ištirā'i l-xubz-i
 買うこと(VN)-GEN DEF-パン-GEN

「母はその子供に（無理やり）パンを買うことを強制した。」

(4a-2) ja'alat l-'umm-u t-ṭifl-a yaštārī
 ~させる:PFV.3.F.SG DEF-母親-NOM DEF-子供-ACC 買う:IPFV.3.M.SG

xubz-an

パン-ACC

「母はその子供にパンを買わせた。」

(4b) 《遊びに出たがっているのを見て》母は子供を遊びに行かせた。

(4b-1) samahat l-'umm-u li-t-ṭifl-i bi-'an
 許可する:PFV.3.F.SG DEF-母親-NOM ~に-DEF-子供-GEN 前置詞-that (接続詞)
 yaḏhaba li-l-la'b-i
 行く:SBJV.3.M.SG ~のために-DEF-遊び-GEN

「母親は自分の子どもに遊びに行くことを許可した。」

(4b-2) tarakat l-'umm-u li-t-ṭifl-i yaḏhabu
 放っておく:PFV.3.F.SG DEF-母親-NOM ~に-DEF-子供-GEN 行く:SBJV.3.M.SG
 li-l-la'b-i

~のために DEF-遊び-GEN

「母親はその子どもを（ほったらかして）遊びに行かせた。」

(4b) (4b-1)は samaha「許可する」という動詞に that+動詞の接続形を後続させた文である。(4b-2)は taraka「放っておく」+目的語(人)+動詞の未完了形で「放置して勝手に~にやらせる」というマイナスのニュアンスになる。

(5a) 私は弟に服を着せた。

'albastu 'ax-ī l-malābis-a
着させる: IV.PFV.1.SG 弟.NOM-私.GEN DEF-服.PL-ACC
「私は弟に服を着せた。」

(5b) 私は弟にその服を着させた。

ja'altu 'ax-ī yalbasu l-malābis-a
～させる: PFV.1.SG 弟.ACC-私.GEN 着る: IPFV.3.M.SG DEF-服.PL-ACC
「私は弟に服を着せた。」

(5) (5a)は動詞の IV 形を用いた文である。(5b)は英語の make+目的語+原型不定詞に相当する表現である。

(6) 私は弟にその本をあげた。

'a'taytu 'ax-ī š-šaḡīr-a al-kitāb-a
あげる: PFV.1.SG 弟-私.GEN DEF-小さい-ACC DEF-本-ACC
「私は弟にその本をあげた。」

(7a) 私は弟に本を読んであげた。

qara'tu kitāb-an li-'ax-ī š-šaḡīr-a
読む: PFV.1.SG 本-ACC ～のために-弟.GEN-私.GEN DEF-小さい-GEN
「私は弟に本を読んであげた。」

(7b) 兄は私に本を読んでくれた。

qara'a 'ax-ī kitāb-an l-ī
読む: PFV.3.F.SG 兄.NOM-私.GEN 本-ACC ～のために-私.GEN
「兄は私に本を読んでくれた。」

(7c) 私は母に髪の毛を切ってもらった。

qaṣṣat l-ī 'umm-ī ša'r-ī
切る: PFV.3.F.SG ～のために-私.GEN 母親.NOM-私.GEN 髪-GEN
「私の母が私のために髪の毛を切った。」

(7) MSA では「～てあげる」「～てくれる」の表現に違いはない。li-「～のために」という前置詞を用いて「恩恵」を示す。「～てもらう」についても特別の表現はない。髪をきってくれた人が明らかであることから、日本語の「私は母に髪の毛を切ってもらった。」のように「私は」を主語にして文を作らない。

(8a) 私は（自分の）体を洗った.

ġasaltu

（体を）洗う:PFV.1.SG

「私は体を洗った.」

(8b) 私は手を洗った.

ġasaltu yad-ay-a

洗う:PFV.1.SG 手-DU.ACC-私.GEN

「私は手を洗った.」

(8c) 彼は（／その人は）手を洗った.

ġasaltu yad-ay-hi

洗う:PFV.3.M.SG 手-DU.ACC-彼.GEN

「彼は手を洗った.」

(8) (8a)は「体を洗う」という自動詞で表す。(8b)は「手」を目的語にとる他動詞を用いる。(8b)と(8c)は同じ構文である.

(9) 私は（自分のために）その本を買った.

ištaraytu l-kitāb-a l-i

買う:PFV.1.SG DEF-本-ACC ~のために-私.GEN

「私は自分のためにその本を買った.」

(9) (7)と同じで li- 「～のために」という前置詞を用いる.

(10) 彼らは（／その人たちは）（互いに）殴り合っていた.

(10-1) kāna yatalākamāni

COP: PFV.3.M.SG 互いに殴りあう:IPFV.3.M.DU

「彼ら二人は互いに殴り合っていた.」

(10-2) kāna yatalākamānū

COP: PFV.3.M.SG 互いに殴りあう:IPFV.3.M.PL

「彼ら（3人以上）は互いに殴り合っていた.」

(10-3) kāna yaḍribāni ba‘ḍ-a-humā l-ba‘ḍ-i

COP: PFV.3.M.SG 殴りあう:IPFV.3.M.PL 人-ACC-彼ら.PL.GEN DEF-人-GEN

（下線部で「互いに」）

「彼らは（3人以上）は互いに殴り合っていた.」

(10) (10-1)(10-2)は「互いに～する」という意味を表す派生形第VI形動詞（自動詞）を用いた文で目的語をとらない。(10-3)は「互いに～する」という意味の第III形動詞（他動詞）を用いた文で、目的語をとる.

(11) その人たちは《みな一緒に》町へ出発した。

taraka l-ašxāš-u 'ila l-madīnat-i ma'-an
出発する:PFV.3.M.SG DEF-人.PL ～に DEF-町-GEN (対格で) 一緒に
「その人たちは一緒に町へ出発した。」

(11) 「一緒に」という副詞句を用いて表す。

(12) その映画は泣ける (その映画を見ると泣いてしまう)。

(12-1) yubkī-nī l-film-u
泣かせる:IPFV.3.M.SG-私.ACC DEF-映画-NOM
「その映画は私を泣かせる。」

(12-2) yaj'al-nī l-film-u 'abkī
～させる:IPFV.3.M.SG-私.GEN DEF-映画-NOM 泣く:IPFV.1.SG
「その映画は私を泣かせる。」

(12) (12-1)は無生物を主語にして、使役を表す派生形第 IV 形動詞を用いた文である。(12-2)は(2)と同じ形式の文 (ja'ala 「～させる」 + 目的語 + 動詞の未完了形) である。

(13a) 私は卵を割った。

(13a) kasartu baydat-an
割る:PFV.1.SG 卵-ACC
「私は卵を割った。」

(13b) 《うっかり落として》私はコップを割った (／割ってしまった)。

(13b) kasartu ka'a-an sahw-an
割る:PFV.1.SG コップ-ACC (対格で) うっかり
「私はうっかりコップを割った。」

(13) 動作の意志の有無は動詞では表せない。(13b)のように副詞句で「無意識」であることを示す。

(14a) きのう私はコーヒーを飲みすぎて (飲みすぎたので) 眠れなかった。

lam 'astaḡī' 'an 'anāmā 'ams-i
NEG できる:JUSS.1.SG that 寝る:SBJV.1.SG 昨日-GEN
li-'an-nī šaribtu l-kaḡīr mina l-qahwat-i
(理由) -that (接続詞) -私.ACC 飲む:PFV.1.SG DEF-たくさん ～の DEF-コーヒー
「きのう私はコーヒーを飲みすぎて (飲みすぎたので) 眠れなかった。」

(14b) きのう私は仕事がたくさんあって (たくさんあったので) 眠れなかった。

lam 'astaṭī' 'an 'anāmā 'ams-i
 NEG できる:JUSS.1.SG that 寝る:SBJV.1.SG 昨日-GEN
 li-'an-nī kāna 'ind-ī
 (理由) -that (接続詞) -私.ACC COP: PFV.3.M.SG (前置詞) ~ところに-私.GEN
 'a'māl-un kaṭīr-un
 仕事.PL-NOM たくさんの-NOM

「きのう私は仕事がたくさんあって (たくさんあったので) 眠れなかった。」

(15) 私は頭が痛い。

'ind-ī ṣdā'-un
 (前置詞) ~ところに-私.GEN 頭痛-NOM

「私は頭が痛い (私は頭痛を持っている).」

(15) 必ず非限定の名詞を用いる (「所有表現」の言語データを参照のこと)。

(16) あの女性は髪が長い。

(16a) la-hā ṣa'r-un ṭawīl-un
 (前置詞) ~に-彼女.GEN 髪-NOM 長い-NOM

「彼女は長い髪を持って (して) いる。」

(16b) ṣa'r-hā ṭawīl-un
 髪-彼女.GEN 長い-NOM

「彼女の髪は長い。」

(16) 身体部位の場合, 所有表現は(16a)のように, 「前置詞 li-所有者+非限定名詞」の形で表す。

(17a) 彼は (別の) 彼の肩を叩いた。

'amsaka bi-katif-i-hi
 叩く:PFV.3.M.SG 前置詞(of)-肩-GEN-彼.GEN

「彼は彼の肩をつかんだ。」

(17b) 彼は (別の) 彼の手をつかんだ。

'amsaka bi-yad-i-hi
 叩く:PFV.3.M.SG 前置詞(of)-手-GEN-彼.GEN

「彼は彼の手をつかんだ。」

(18a) 私は彼がやって来るのを見た。

ra'aytu-hu wa-huwa ya'ti 'ila hunā
見る:PFV.1.SG-彼.ACC 接続詞 (付帯状況) -彼.NOM 来る:IPFV.3.M.SG ~に ここに
「彼がここに来るのを私は見た。」

(18b) 私は彼が今日来ることを知っている。

'a'rifu 'anna-hu sa-ya'ti l-yawm-a
知っている:IPFV.1.SG that (接続詞) -彼.ACC FUT-来る:IPFV.3.M.SG DEF-日-ACC (今日)
「私は彼が今日来ることを知っている。」

(19) 彼は自分 (のほう) が勝つと思った。

kāna yazunnu 'anna-hu sa-yafūzu
COP:PFV.3.M.SG 思う:IPFV.3.M.SG that (接続詞) -彼.ACC FUT-勝つ:IPFV.3.M.SG
「彼は自分が勝つと思っていた。」

(20a) 私は (コップの) 水 (の一部) を飲んだ。

šaribtu ka's-an min al-mā'i
飲む:PFV.1.SG コップ-ACC ~の DEF-水-GEN
「私はコップの (中の) 水を飲んだ。」

(20b) 私は (コップの) 水を全部飲んだ。

šaribtu ka's-a l-mā'i kull-a-hu
飲む:PFV.1.SG コップ-ACC DEF-水-GEN 全て-ACC-それ.ACC
「私はコップの水 (それ) 全てを飲んだ。」

(21) あの人は肉を食べない。

lā ya'kulu l-laḥm-a
NEG 食べる:IPFV.3.M.SG DEF-肉-ACC
「彼は肉を食べない。」

(22a) 今日は寒い。

(22a-1) al-yawm-u bārid-un
DEF-日-NOM 寒い-NOM
「今日は寒いです。」

(22a-2) a-ṭṭaqs-u bārid-un al-yawm-a
DEF-天気-NOM 寒い-NOM DEF-日-ACC (今日)
「今日の天気は寒いです。」

(22b) 私は (何だか) 寒い (私には寒く感じる).

(22b-1) 'aš'uru bi-l-bard-i
 感じる:IPFV.1.SG 前置詞(of)-DEF-寒さ-GEN
 「私は寒さを感じている。」

(23) 私は人がとても多いのに驚いた.

ndahaštu min kaṭrat-i n-nās-i
 驚く:PFV.1.SG ~に 多さ-GEN DEF-人々-GEN
 「私は人の多さに驚いた。」

(24) 雨が降ってきた.

bada'at (s-samā'-u) tamṭuru
 始まる:PFV.3.F.SG (DEF-天気-NOM) 雨が降る:IPFV.3.F.SG
 「雨が降り始めた。」

(25) その本は良く売れる.

(25-1) yubā'u l-kitāb-u jayyīd-an
 売る:PASS.IPV.3.M.SG DEF-本-NOM 良い-ACC
 「その本はよく売れる (直訳: 売られる).」

(25-2) a-ssikkīnat-u ḥāddat-un jayyīd-an
 DEF-ナイフ-NOM 鋭い-APT-NOM 良い-ACC
 「そのナイフはすごく鋭い (よく切れる).」

(25-1)は受動態を用いた文である. (25-2)は能動分詞を用いた状態を表す文である.

参考文献

- Cantarino, Vicente. (1974) *Syntax of Modern Arabic Prose: The Simple Sentence*. vol.1, Bloomington: Indiana University Press.
- Holes, Clive. (1995) *Modern Arabic: Structures, Functions and Varieties*. London, New York: Longman Publishing.
- Sāmīrā'ī, Fāḍil Šāliḥ. (2000) *Ma'ānā n-Nāḥw*. vol.4, al-'urdunnu: Dār al-fikr.
- 八木久美子, 青山弘之, エベード, イハープ・アフマド(2013)『大学のアラビア語詳解文法』府中(東京): 東京外国語大学出版会.

略号一覧

I~X: pattern I~X 派生形第~形	FUT: future tense 未来	PL: plural 複数形
1, 2, 3: 1st,2nd, 3rd person 1, 2, 3 人称	GEN: genitive 属格	PPT: passive participle 受動分詞
ACC: accusative 対格	IMPF: imperfective 未完了形	Q: questionmarker 疑問標識
COP: copla コピュラ	JUSS: jussive 短形	REL: relative 関係詞
DEF: definite 定	M: masculine 男性形	SBJV: 接続形
DU: dual 双数形	NEG: negative 否定	SG: singular 单数形
F: feminine 女性形	NOM: nominative 主格	VN: verbal noun 動名詞
	PASS: passive 受動態	- 形態素境界
	PFV: perfective 完了形	

転写法

字母	ا	ب	ت	ث	ج	ح	خ	د	ذ	ر	ز	س	ش	ص	ض	ط	ظ	ع	غ	ف	ق	ك	ل	م	ن
転写	'	b	t	ṭ	j	ħ	x	d	ḍ	r	z	s	š	ʂ	ɖ	ʈ	ʒ	ʕ	g	f	q	k	l	m	n
字母	و	ي																							
転写	h	w	y																						